

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期
(2022年度～2026年度)

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸の中長期計画Ⅰ期(2017年4月1日～2022年3月31日)における取組内容とその成果を継承して、中長期計画Ⅱ期(2022年4月1日～2027年3月31日)を策定する。さらに、今後も想定される災害やコロナ禍における社会環境の変化への迅速な対応、人口減少社会・少子超高齢化社会、18歳人口の減少における大学をめぐる状況にも留意し、大学単独で取り組むには困難な課題について、大学プラットフォームの多面的な資源を活用して取り組む。大学間連携・産官学連携での人的交流ならびに人材育成、加盟校の多面的な教育活動に寄与する計画とする。

[ビジョン・目標]

大学間連携・産官学連携で「人がつながり、多様な学びを共創する“ひょうご神戸”」

兵庫県内の大学が連携して、地方自治体、産業界とともに、「若者が育ち、活躍する県」であることのメッセージを発するとともに、人生100年時代を迎え、多様な学びを提供する大学コンソーシアムひょうご神戸の取組を通じて、兵庫県と加盟校の魅力を県内外に発信する。兵庫県内の若者人口の増加、大学教育・地域創生への貢献が明確に可視化される活動を展開する。

大学間連携組織の特徴を生かした産官学連携のあり方として、「人」を繋ぐ、「組織」を繋ぐ、「情報」を集約できる場をめざす。

大学コンソーシアムひょうご神戸が、大学間連携組織の特徴を生かして、産官学連携による人材育成・教育支援に取り組み、地域に貢献できるような大学プラットフォームを構築する。そのために以下の4つの柱での取組事業を実施する。

1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携
2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援
3. 県内大学の教育・研究の質を高める多面的学びの提供
4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築

[体制] プラットフォーム：ひょうご産官学連携協議会



加盟校数、賛助会員数は、2021年12月現在

[具体的な取り組み内容]

上記の課題を踏まえ、中長期的な目標を設定し、①情報の共有と発信②人的交流の促進③ステークホルダー（地方自治体・企業・地域・高等学校等）との有機的連携の3つを重点項目として取り組む。

1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携

①地域の活性化のための県内企業への就職率の向上

（加盟校学生と県内企業とのマッチングに向けた連携）

【取組1】大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクトの実施

（目標）各年参加者数 500 名以上

（内容）兵庫県の年齢別転出超過で最も多いのは、大学卒業・就職を契機とした若者であり、県内大学卒業者の『県内企業への就職率』は、3割弱に過ぎず、7割以上が県外に本社のある企業に就職している。その要因の一つとして、大学生の県内企業への理解不足があると考えられる。県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供する。地元企業と加盟校が連携することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、地域の活性化を実現する。

（担当）キャリア部門

【取組2】県内企業・団体等の魅力を情報発信

（目標）情報公開企業・団体数 120 社以上

（内容）地域の産業界の協力を得て県内企業や団体等の情報を収集し、大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公表するとともに、兵庫県内の職業紹介サイト等との連携も図る。加えて、県内企業・団体等が求める人材について、情報交換会等を通じ、企業と大学間で人材ニーズと人材育成に関する情報の共有と相互理解を深める。

（担当）キャリア部門

②県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続

【取組1】大学と高等学校の意見交換会の実施

（目標）各年参加校数 20 校以上

（内容）教育委員会等と連携して兵庫県下の高等学校と大学との意見交換の場である「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」等において、兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換を行い、兵庫県下の高大連携を深める。

（担当）高大連携部門

【取組2】加盟校の魅力を情報発信

（目標）各年情報提供先数 高等学校等 200 校以上

(内容) 加盟校に関する情報発信を強化し、加盟校への進学率の向上を図る。生徒が高校生から大学生、社会人になるまでの学びのルートマップを描けるような情報を発信する。
(担当) 高大連携部門

③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進

【取組1】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施

(目標) 各年参加者数 50 名以上

(内容) 他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクトを実施する。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

(担当) 学生交流部門

【取組2】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

(目標) 情報公開数 200 取組以上

(内容) 加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公開する。各年、継続的に事例紹介を重ねることにより、本計画期間内で 200 取組以上を紹介する。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。

(担当) 学生交流部門

2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援

④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進

【取組1】留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施

(目標) 各年参加者数 500 名以上

(内容) “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル人材育成を目指した事業を展開する。プラットフォームを活用した留学生就職促進事業として、大学、行政、企業が連携し、新たなネットワークを構築することでの留学生の受入環境づくりを促進し、卒業後の県内企業への就職の動機付けを図る。

(担当) キャリア部門

⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進

【取組1】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施

(目標) 各年参加者数 500 名以上

(内容) 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（日本学生支援機構委託事業）にお

いて、大学間連携による国際交流の拠点を、兵庫国際交流会館を起点に大学キャンパス外の地域社会に形成することを推進する。留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。

(担当) 国際交流部門

【取組2】 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進

(目標) プログラム数 10 件以上

(内容) 大学コンソーシアムひょうご神戸のネットワークを生かして、加盟校主催の国際交流イベントの情報を収集し、加盟校間の情報共有を行う。本計画期間内において、段階的に加盟校が主催する国際交流プログラムと連携することにより、大学の枠を超えた加盟校間の留学生・日本人学生等の交流を促進させる。

(担当) 国際交流部門

3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供

⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

【取組1】 加盟校間での FD・SD セミナーの公開

(目標) 各年セミナー数 5 件以上

(内容) 加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

(担当) FD・SD 部門

【取組2】 FD・SD 情報交換会、セミナー等の開催

(目標) 各年参加者数 50 名以上

(内容) 加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

(担当) FD・SD 部門

⑦大学間連携による多様な教育ニーズへの対応

【取組1】 単位互換事業の実施

(目標) 各年開放科目数 10 科目以上

(内容) 加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。

(担当) 教育連携・教務部門

【取組2】 多様な学修機会の提供

(目標) 各年プログラム数 5 件以上

(内容) 加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供するため、本計画期間内において、段階的に加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する(ICTを活用したコンテンツ、専門領域や分野横断型のプログラム等)。

(担当) 教育連携・教務部門

⑧県内大学を活用した社会人の学びなおしの推進

【取組1】リカレント教育の普及促進に向けた取組

(目標) 各年参加者数 50 名以上

(内容) 加盟校によるリカレント教育の推進・理解促進に向けたセミナー・情報交換会等を開催する。産官学で連携したリカレント教育推進に関するネットワークを構築する。

(担当) リカレント教育部門・企画運営委員会

【取組2】加盟校のリカレント教育に関する情報発信

(目標) 各年 10 校以上

(内容) 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページで加盟校が開講するリカレント教育に関する取組情報を発信する。

(担当) リカレント教育部門・企画運営委員会

4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築

⑨大学資源を活用する地域プラットフォームの形成

【取組1】大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築

(目標) 大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充

(内容) 兵庫県下で大学間連携のプラットフォームとして、加盟校の大学資源を生かす運営体制を本計画期間内において、段階的に構築する。また、加盟校がすでに有している大学間連携・地域・地方自治体との連携体制の理解促進も図る。

(担当) 企画運営委員会

【取組2】緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築

(目標) 緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築

(内容) 感染症(新型コロナウイルス感染症等)や災害対応等、災害・緊急事態対応等の不測の事態に備えて、定期的に加盟校が蓄積する経験や知見の情報収集を行い、共有する。本計画期間内において、段階的に情報共有を重ねることにより、有事の際に速やかに情報共有・情報提供ができる体制の構築を目指す。

(担当) 企画運営委員会

⑩県内大学が活性化する事業運営体制の整備

【取組1】加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進

（目標）加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築

（内容）加盟校教職員が大学間連携活動に積極的に参画できる事業運営体制を本計画期間内において、段階的に検討・構築する。同じ課題を有する加盟校による小グループで課題の共有、ICTの活用、プロジェクト型での事業推進等のニーズに合わせて、事業運営体制の整備に取り組む。

（担当）企画運営委員会

上記の中長期計画に基づき、各年度毎の事業計画を別途作成し、各プログラムの具体的な活動指標を個別に定めて事業を推進する。なお、中長期計画を実施する計画ならびに担当については、年度毎の見直しにより変更することがある。

以 上

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 事業委員会運営に関する申し合わせ

企画運営委員会

1. 目的

この申し合わせは、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸(以下「コンソ」という。)定款第 38 条に基づき設置した事業委員会の運営について、必要な事項を定めるものとする。

2. 事業委員会の組織

- ・事業委員会は、正会員の教職員からなる委員により、構成する。
- ・事業委員会の委員は、正会員あたり原則 2 名(教員 1 名、職員 1 名)とし、毎年度、第1回委員会開催までにコンソ事務局に登録する。

3. 委員長校、副委員長校

- ・事業委員会は、委員長校、副委員長校を置く。但し、副委員長校は複数校置くことができる。
- ・委員長校は、副委員長校と連携し、事業計画の策定、事業委員会の招集、審議など、事業委員会の円滑な運営に努める。
- ・副委員長校は、委員長校を補佐し、委員長校が不在の場合は、職務を代行し、事業委員会の円滑な運営に努める。
- ・委員長校、副委員長校の任期は、2 年とし、再任は妨げない。
- ・任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取の上、企画運営委員会で協議し、理事会で決定する。
- ・委員長校は、原則として理事校が担当する。但し、理事会が認める場合、理事校以外の正会員が担当することができる。

4. 事業委員会の任務

- ・事業委員会は、理事会において決定された事業方針に則り、事業の具体的な計画・実施・報告(自己評価)を行う。
- ・事業委員会は、必要に応じ情報を共有する。

5. 事業委員会の招集・議事

- ・事業委員会は、委員長が必要と認めたとき、又はそれぞれの事業委員会を構成する正会員の半数以上からの請求があったときに委員長が招集する。
- ・事業委員会の委員長は、事業委員会の承認を経て、「正会員当たり原則 2 名の委員」に拘らず、計 3 名以上の者もしくは委員以外の者を出席させることができる。

6. 成立要件(定足数)

- ・事業委員会は、それぞれの事業委員会を構成する正会員の過半数の出席をもって成立とする。
- ・委員が欠席し、代理者が出席した場合は、その委員は出席したものとみなす。
- ・「委任状」の制度は用いない。
- ・事業委員会は、対面、オンライン、書面又は電磁的記録による会議方式によって開催する。

7. 議決権及び議決数

- ・正会員あたり各1個の議決権を有し、議事は出席した正会員の過半数をもって決する。なお可否同数のときは委員長の決するところとする。

8. プログラム担当校

- ・事業委員会において、必要に応じ、プログラムを主に担当するプログラム担当校を置くことができる。
- ・プログラム担当校は、委員長校・副委員長校と相談のうえ、プログラムの計画、実施、報告(自己評価)を行う。
- ・委員長校・副委員長校がプログラム担当校となることを妨げない。

9. 事業委員会事務局

- ・事業委員会に関する事務は、コンソ事務局と事業委員会の事務局(委員長校・副委員長校)が連携して行う。

10. 改廃

- ・この申し合わせの改廃は、企画運営委員会の議を経て、理事会で決定する。

附記

- ・この申し合わせは、2019年4月1日から施行する。
- ・この申し合わせは、2022年4月1日から改正施行する。
- ・「3.委員長校、副委員長校」の任期について、2022年度は、新たに任命された委員長校、副委員長校を含め1年とする。

以上

【2022年度 FD・SD委員会 事業計画】

FD・SD委員会

委員長校 : 神戸学院大学

副委員長校: 兵庫大学、神戸薬科大学

委員校: 芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸海星女子学院大学、
神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和女子大学、
神戸大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、
園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫医科大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、
兵庫大学短期大学部 計25校

<目的>委員会全体の「総論的な目的」(ねらい)

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、闊達な意見交換の場を創出する。

上記の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

<内容>取組課題⑥に対する「個別取組」は、下記の通り。

【取組1】加盟校間でのFD・SDセミナーの公開

加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

・「大学運営」に関する科目の受講支援等

【取組2】FD・SD情報交換会、セミナー等の開催

加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

・FD・SDトップセミナー等

上記の取組について、運営体制の構築と推進は、中長期計画Ⅱ期5ヵ年において段階的に取り組む。

期中において新規事業やプロジェクト企画の必要性がある場合は、本委員会にて検討して事業推進を行う。

<期待される効果>下記すべてのプログラムを行うことで、得られる「総論的な効果」

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員の資質向上に寄与し、加盟校の担当者間の情報交換・交流や加盟校間での人材交流を促進する場が提供できる。

実施プログラム名称		予算額
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	0円
取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	500,000円

【2022年度 FD・SD委員会 事業計画(取組1-1)】

【取組1】達成目標	各年セミナー5件以上
【取組1】活動指標	参加者数100人以上／年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標 【取組1-1】	大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供する。			
課題を解決する 取組概要 【取組1-1】	【取組1】加盟校間でのFD・SDセミナーの公開 1、加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開			
活動指標 【取組1-1】	公開セミナー開催数:4件以上／年			
内容 (計画)	<p>「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」について、以下内容について計画・実施する。</p> <p>1) 加盟校のFD・SDセミナーの情報を収集、コンソホームページ上で提供する。 (1) 本仕組みを活発に運用していくため、半年に1回程度、委員校への協力依頼を行う。 また、加盟校からの公開依頼がある場合は、随時、対応を行う。 (2) 加盟校からの情報提供方法に、Webフォームを取り入れる。 情報提供の方法を簡便化することで、更なる利用促進を図る。</p> <p>2) 委員会・各セミナー等において適宜、本事業について理解と協力を求めていく。</p> <p>3) 年1回、FD・SDセミナーの実施内容に関するアンケートを実施。 加盟校のニーズに合うセミナーの公開と、参画校の拡充に取り組む。</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)	加盟校からのFD・SDセミナー情報の提供方法について、Webフォームを取り入れ、手続きの簡便化を図る。セミナー情報を提供しやすい仕組みを作ることで、本仕組みの利用のさらなる活性化を目指す。			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	0	0	0	
自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	
■ 自己評価基準 (対到達目標)	4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った	■ 自己評価基準 (対継続性)	4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき	
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)				

【2022年度 FD・SD委員会 事業計画(取組1-2)】

【取組1】達成目標	各年セミナー5件以上 □
【取組1】活動指標	参加者数100人以上／年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標 【取組1-2】	加盟校から4大学以上・10名以上が受講			
課題を解決する 取組概要 【取組1-2】	【取組1】加盟校間でのFD・SDセミナーの公開 2、「大学運営」に関する科目の受講支援			
活動指標 【取組1-2】	大学教職員の受講動機を高めるための周知活動をおこなう			
内容 (計画)	<p>1)「大学運営」科目概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名称:大学運営 ・開講日程:2022年度第3クォーター土曜日の13:00～16:00(予定) ・開講場所:関西学院大学大阪梅田キャンパス(アプローズタワー14階) ・シラバス:別紙 <p>2)取組内容</p> <p>周知活動として以下をおこなう(いずれも2022年6月予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大学コンソーシアムひょうご神戸事務局を通じて各大学に受講のご案内を送り出す ②関西学院大学経営戦略研究科のwebサイトにてプログラムの周知、受講の案内を行う 			
新しい試み等 (事業計画に記載)	特になし			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	0	0	0	
自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	
<p>■自己評価基準 (対到達目標)</p> <p>4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った</p>	<p>■自己評価基準 (対継続性)</p> <p>4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき</p>			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)				

【2022年度 FD・SD委員会 事業計画(取組2-1)】

【取組2】達成目標	各年参加者数50名以上
【取組2】活動指標	開催数:3回以上/年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
達成目標 【取組2-1】	大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める。		
課題を解決する 取組概要 【取組2-1】	【取組2】FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 1、加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催(FD・SDトップセミナー)		
活動指標 【取組1-2】	開催数:1回以上/年		
内容 (計画)	<p>〈FD・SDトップセミナー〉 テーマ(仮):「GIGAスクール構想がもたらす大学教育への影響 -次代の学生像を考える-」 初等中等教育のコロナ禍におけるオンライン授業実施で「GIGAスクール構想」が3年前倒しになった。タブレットをはじめとしたICT活用など、授業方法や学習形態の変化は今後の高等教育にも大きな影響を及ぼすと考えられる。 ① 総論: 高等教育のあり方、とりわけ大学におけるICTを活用した教育の推進などについて、中央教育審議会等の関係者から講義いただく。 ②各論: 兵庫県内のICT活用等の実践を初等中等教育現場の関係者から講義いただく。 ③総括: 次代の学生像について 同セミナーを実施することにより、兵庫県全体の高等教育の改革に資する情報共有の場を創出するとともに、大学幹部および教職員の資質・能力の向上を図る。</p>		
新しい試み等 (事業計画に記載)	新しい取り組みなどを記載 ・高等教育のみならず、初等中等教育との接続を俯瞰する視点から、中期的に計画立案等が必要な喫緊の課題をテーマとして設定する。 ・専用ポスター等を作成し、より多くの大学の参加を促進する		
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円) 備考
	500,000	0	500,000 取組2-1、2-2 の合計
自己評価	【対到達目標】		【対継続性】
■自己評価基準 (対到達目標) 4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性) 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき		
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)			

【2022年度 FD・SD委員会 事業計画(取組2-2)】

【取組2】達成目標	各年参加者数50名以上
【取組2】活動指標	開催数:3回以上/年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標 【取組2-2】	事業終了時、受講者アンケート調査において、「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が平均70%以上であることを目指す。			
課題を解決する 取組概要 【取組2-2】	【取組2】FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 2、「内部質保証システム」構築に向けた取り組みの推進			
活動指標 【取組2-2】	セミナー・勉強会開催数:2回以上/年			
内容 (計画)	<p>「内部質保証システム」をテーマとしたFD・SDセミナーを開催し、加盟校での啓発活動を行うと共に、実務的な勉強会を実施する。</p> <p>基本的な活動内容 1)「内部質保証システム」をテーマとしたセミナーや勉強会の開催(例えば、IRや認証評価に関するもの)</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	500,000	0	500,000	取組2-1、2-2 の合計
自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき	
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)				

2022年度 FD・SD委員会 事業予算

(単位:円)

	予算	各プログラム 予算				委員会 予算	
		①		②			
		加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開		FD・SD情報交換会、セミナー等の開催		内訳	予算額
		内訳	予算額	内訳	予算額		
収入	会費収入	600,000			500,000		100,000
	助成事業収入	0					
	受託事業収入	0					
	プログラム収入	0					
	雑収入	0					
	戻入金	0					
	計	600,000	0	500,000	100,000		
支出	会議費	110,000		懇親会	100,000	会議費	10,000
	旅費交通費	90,000		講師交通費	80,000	旅費交通費	10,000
	通信運搬費	30,000				通信運搬費	30,000
	消耗品費	10,000				消耗品費	10,000
	新聞図書費	0					
	印刷製本費	0					
	光熱水料費	0					
	賃借料	260,000		会場費	220,000	賃借料	40,000
	保険料	0					
	謝金	100,000		講師謝金	100,000		
	租税公課	0					
	支払手数料	0					
	諸会費	0					
	委託費	0					
	人件費	0					
	接待交際費	0					
	支払支援金	0					
雑費	0						
計	600,000	0	500,000	100,000			

収入－支出	0
-------	---

「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」情報共有の仕組み

2022年度の大学コンソーシアムひょうご神戸（以下「コンソ」という。）FD・SD委員会事業「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」については、コンソ加盟校の協力を得て、以下のとおり実施する。

1 「加盟校が実施するFD・SDセミナー」の公開について

本事業におけるFD・SDセミナーの「公開」とは、加盟校が実施するFD・SDセミナーへの参加枠を自学以外のコンソ加盟校教職員に開放することをいいます。

2 「加盟校が実施するFD・SDセミナー」の情報収集及び情報提供について

加盟校が実施するFD・SDセミナーのうち、公開が可能であるFD・SDセミナーについて、下記のとおり情報の提供を依頼する。

(1) 情報収集及び情報提供の担当窓口について

本委員会は、コンソ事務局の所有する「FD・SD委員会名簿」に記載の担当部署又は「コンソ担当者一覧」を通じて、上記のセミナーに関する情報の収集・提供を行います。

(2) 加盟校からの情報収集について

ご協力いただける加盟校は上記のセミナーに関する情報をWebフォームによる「コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー情報提供フォーム」により随時ご提供ください。（セミナーの案内・実施要項・申込用紙等を併せてご提供ください。）

なお、セミナー実施後は「コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー実施報告フォーム」により「最終参加人数」をご報告ください。併せて、上記セミナーに係る配付資料、報告書及びアンケート結果等を可能な範囲で添付にてご提供ください。

(3) 加盟校への情報提供について

本委員会は、上記(2)により提供いただいた情報を取りまとめ、以下のとおり加盟校へ情報を随時提供します。

① 公開FD・SDセミナー

提供いただいた「公開FD・SDセミナー」をコンソのホームページ上に掲載するとともに、上記(1)の担当窓口へメールにて送付します。

※ 各校においては、適宜の方法により学内に周知いただくとともに、セミナー実施校が示す方法により直接、参加を申し込んでください。

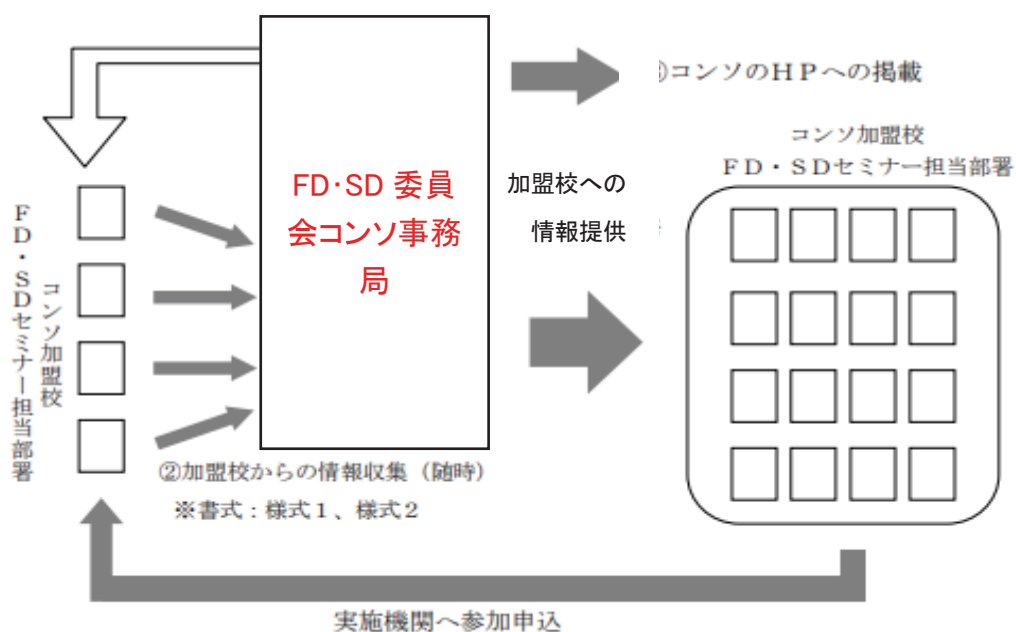
② 上記①のセミナーに係る配付資料、報告書及びアンケート結果等

上記(1)の担当窓口へ適宜の方法により送付します。

※ 学内又は加盟校のFD・SD担当者間での情報交換等にご活用ください。

3 その他

○FD・SDセミナー公開のイメージ図



- 「コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー情報提供フォーム」URL
<https://ws.formzu.net/dist/S502194952/>

* 情報提供は、上記フォームにて直接入力ください。

- 「コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー実施報告フォーム」URL
<https://ws.formzu.net/dist/S78326574/>

* セミナー実施後は、上記フォームにて直接ご報告ください。

4 問い合わせ先

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸事務局

FD・SD委員会担当：中水かおる

Eメール info@consortium-hyogo.jp TEL：078-271-0233 FAX：078-271-0244

シラバス情報照会 照会画面

条件指定画面 結果一覧画面 照会画面

シラバス情報/Syllabus Information

授業情報/Class Information

授業コード/Class code	97258000	開講キャンパス/Campus	大阪梅田キャンパス/Osaka Umeda Campus
授業開講年度/Academic Year	2022年度		
管理部 署/Administrative Department	経営戦略研究科/IBA/Institute of Business and Accounting		
【科目ナンバー/Course Number】 授業名称/Class Title	【600】 大学運営/University Administration		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期前半/Fall (1st Half)
担当者/Instructor	江原 昭博 (EHARA AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
授業形態/Course Implementation Format	対面授業/Face to face format		
授業形態（オンライン受講許可学生）/Course Implementation Format (For Students permitted to take classes online)	同時双方向型オンライン授業/Online format: Simultaneous and two-way		
授業目的/Course Purpose	<p><重要> 本講義は開放型SD講座を兼ねる。授業計画は外部募集時期に確定する。以下の内容は昨年度のものであり、あくまでも参考情報である。詳細は経営戦略研究科ウェブサイト内該当ページを適宜参照されたい。</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>本講義の目的は、参加学生が、（１）本講義担当教員および各回招聘教員の提供する講義を通じた学修、（２）学生自身による大学運営に関する課題執筆、の２点を通じて、日々の業務の中では身につけることが難しい高等教育の大きな潮流における自らの業務の位置付けの再構築を行うことである。</p>		
授業目的(英文)/Course Purpose	<p>The purpose of this course is for students to</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. study through the lectures made by the faculty member in charge of this course as well as by the speaker invited to the class each time, and 2. writing on the assigned subject about college management, the students will reconstruct the positions of their work in the big trend of higher education that is difficult to learn in the day-to-day business operations. 		
到達目標/Learning Goals	<p>本講座参加学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、各回の講義による歴史的経緯(縦軸)と国際的な環境(横軸)を通じて高等教育の多種多様な課題を認識できる。 2、そうして認識された課題について、各回の学修を通じて自ら文章化し論理的に表現ができる。 3、そうして表出化された自らの考え方ををもとにして、意見交換や議論を進めることがで 		

	きる。 4、そうして身につけた総合的な学力要素に基づいて、自らの日常的な業務の理解・改善・向上に活用できる。
到達目標(英文)/Learning Goals	Students participating in this course will be able to: 1. recognize various issues facing higher education by historical background (vertical axis) and international environment (horizontal axis) presented in the lectures; 2. put in writing and logically express what they will have learned on the issues recognized; 3. exchange opinions and discuss with others based on their own ideas that came to the surface through the process above; and 4. apply the comprehensive learning factors acquired in this learning to their daily business operation for better understanding, improvement, and enhancement.
授業の概要・背景/Course Outline	* <重要> 本講義は開放型SD講座を兼ねる。授業計画は外部募集時期に確定する。以下の内容は昨年度のものであり、あくまでも参考情報である。 *
授業方法 Course Format	ハイフレックス講義。アプリケーションはzoomを使用する。 各週に取り上げるイシューに応じて、各回の授業序盤では本講座担当教員による包括的な講義を行い、授業中盤に当該分野の第一人者による講演を組み合わせ理解を進める。授業終盤では授業準備と前半講義を踏まえた上で、講座担当者と各回講師を中心とするディスカッションを通じて当該トピックの今日的意義と実践的な知見を身につける。各回終了後には毎週振り返りを行い、学期末の最終レポートへ向けて身につけた知見を有機的に紡ぎあげる。
検索キーワード/Keywords	

	授業計画 Topic	授業外学修 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	講義：メインピック「高等教育のパラダイムシフト」 タイトル「高等教育の過去・現在・未来：入試改革の軌跡と感染症を踏まえての課題」	講義開始前課題の提出 今回の復習：講義レポート1を提出する
第2回 Session 2	高等教育の大きな潮流を俯瞰して各大学の実情を踏まえた知見の獲得、感染症、オンライン、入試改革の影響も加味	次回の予習：事前課題を提出する
第3回 Session 3	講義：メインピック：文部科学省が進める最先端の文教政策 タイトル「現在の文教政策：中教審の議論を踏まえて」	今回の復習：講義レポート2を提出する
第4回 Session 4	中央教育審議会、ニューノーマル、ギガスクールを切り口に	次回の予習：事前課題を提出する
第5回 Session 5	講義：メインピック：課外活動の推進と学生の成長	今回の復習：講義レポート3を提出する
第6回 Session 6	ブラック部活、ブラック校則は、課外活動にどのような影響を与えるか、学生との関係はどうか	次回の予習：事前課題を提出する
第7回 Session 7	講義：メインピック：大学広報戦略の課題は見えているか	今回の復習：講義レポート4を提出する
第8回 Session 8	番組制作、メディア、ブランディング、プロデューサーの切り口で	次回の予習：事前課題を提出する
第9回	講義：メインピック「学習者本位の教育改革の理論と実践」	今回の復習：講

Session 9		義レポート5を提出する
第10回 Session 10	アクティブラーニングの本格的理解、学生と学習の変容、トランジション、学生に関する各大学の実情を踏まえた知見の獲得	次回の予習：事前課題を提出する
第11回 Session 11	講義：メインピック：教育の国際的現状と大学職員	今回の復習：講義レポート6を提出する
第12回 Session 12	比較教育、大学経営・政策コース、大学職員論の経験から見てきたこと	次回の予習：事前課題を提出する
第13回 Session 13	講義：メインピック：マーケットデザインと高等教育	今回の復習：講義レポート7を提出する
第14回 Session 14	スタンフォードから東京大学と世界の研究の最前線から、マッチング理論の社会実装まで幅広い知見を獲得	最終レポートを提出する
第15回 Session 15	<重要>本講義は開放型SD講座を兼ねる。授業計画は外部募集時期に確定する。上記内容は昨年度のものであり、あくまでも参考情報である。詳細は経営戦略研究科ウェブサイト内該当ページを適宜参照されたい。 ~~~~~ ~~~~~	
授業外学修 Study Required outside Class	各講義について事前学習課題を課すので各自事前準備を済ませた上で講義に参加する。講義終了後、毎回事後学習を課す。特に事後学習については各回の課題を通じて最終レポートにつながるものであり、積極的な取り組みを期待する。課題の提示及び提出についてはLMSを活用する。	

教科書 Required texts	特定の教科書は使用しない。
-----------------------	---------------

参考文献・資料 Reference books	各回の参考文献および資料については、各回の招聘後援者およびトピックによって変更が想定されるので、各回内容に合わせてLMSを通じて担当教員より指示する。
----------------------------	---

学位授与の方針との 関連 Relationship to Diploma Policy	各授業科目は、各学部・研究科の定めるディプロマ・ポリシー（DP）・カリキュラム・ポリシー（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 各学部・研究科のDP、CPや教育課程表（授業科目一覧等）は、下記リンクこちらに掲載していますので学修計画の参考にしてください。 https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/reference?typeCd=0&cabinetId=557&directLink=1 ※kwicへのリンクとなります（在学生のみ閲覧可）
--	---

	種別 Type備考 Note	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.
成績評価 Grading	定期試験に代わるレポート/Term paper to replace the final examination (02)	35 %	期末試験（レポート試験）
	その他/Others (99)	65 %	各回終了後の授業レポート (35%)、事前学習と授業参加 (30%)
	備考 Note 授業準備状況、講義への積極参加、各回の事後レポートの内容、学期末レポートによる総合的成績評価		

備考 Note	<注意> 本講座の性格上、各回の招聘講演者の都合による日程や内容の調整が発生することにご注意 いただきたい。よって履修開始後も各回の講義やLMSを通じた連絡についても必ず注目いた だきたい。最高の講座を提供するため多忙な講師陣の調整は学期開始直前まで行われるの で、講座開始時の事前配布書類には必ず目を通していただきたい。
更新日時/Date of Update	2022年03月23日 14時12分35秒

教室情報/Classroom Information

項 番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2022年 度	秋学期前半/Fall (1st Half)	土曜 3 時限/Saturday 3	秋学期前半/Fall (1st Half)	OC1405
2	2022年 度	秋学期前半/Fall (1st Half)	土曜 4 時限/Saturday 4	秋学期前半/Fall (1st Half)	OC1405

※記載されている授業情報は変更されることがあります。最新の情報は、kwicを確認してください。

* Class Information are subjected to changes. Make sure to check for the latest information on the kwic.

戻る/Back